

Passion & Technology



個人投資家向け会社説明会

2026年8月6日

東証プライム（証券コード：1975）



当社ウェブサイト



アナリストレポート
（Shared Research）



決算説明会書き起こし
当社ページ
（ログミーfinance）

高須 康有 Yasutomo Takasu

(株式会社朝日工業社 代表取締役社長)

1953年 兵庫県西宮市生まれ

1976年 近畿大学を卒業後、当社入社

1986年 代表取締役社長に就任

【メッセージ】

誠実さと高度な技術力をもって、
今後もさらに信頼され必要とされる
存在であり続けます。



- | | | |
|---|----------------------------|-------|
| 1 | 会社概要 | P. 4 |
| 2 | 朝日工業社の強み | P. 11 |
| 3 | 業績・資本政策・株主還元 | P. 15 |
| 4 | 新中期経営計画（2027年3月期～2029年3月期） | P. 24 |
| | 参考資料 | P. 32 |



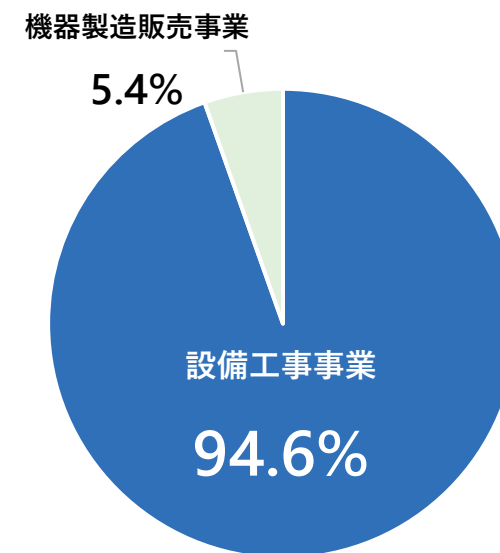
1. 会社概要

会社名	株式会社 朝日工業社
創 業	1925年4月3日
株 式	東京証券取引所プライム市場 (証券コード：1975)
本社所在地	東京都港区浜松町一丁目25番7号
連結売上高	1,048億2,300万円
連結営業利益	116億8,200万円
連結従業員数	1,148名
拠点数	国内40拠点 海外2拠点（台湾・マレーシア） (子会社を含む)



本社本店ビル外観

売上高構成比



設備工事事業を主力としながら、
機器製造販売事業を併せ持つ
2事業体制を展開

Purpose（企業の存在意義）

情熱と技術で、世界をもっと最適に

Create the Best, Make it Better. With **Passion and Technology**.

- 「空気・水・熱」の技術を活用し、空調・衛生設備工事を企画・提案から施工、保守メンテナンス・リニューアル工事までワンストップで提供。
- 半導体工場やデータセンターなど、高度な技術が求められる生産環境施設が売上高の約48%を占める。

設備工事の主な領域

空調調和・換気設備



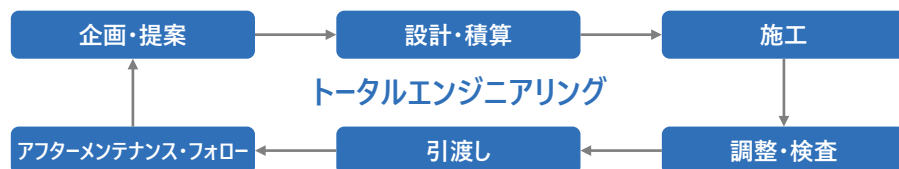
クリーンルーム設備



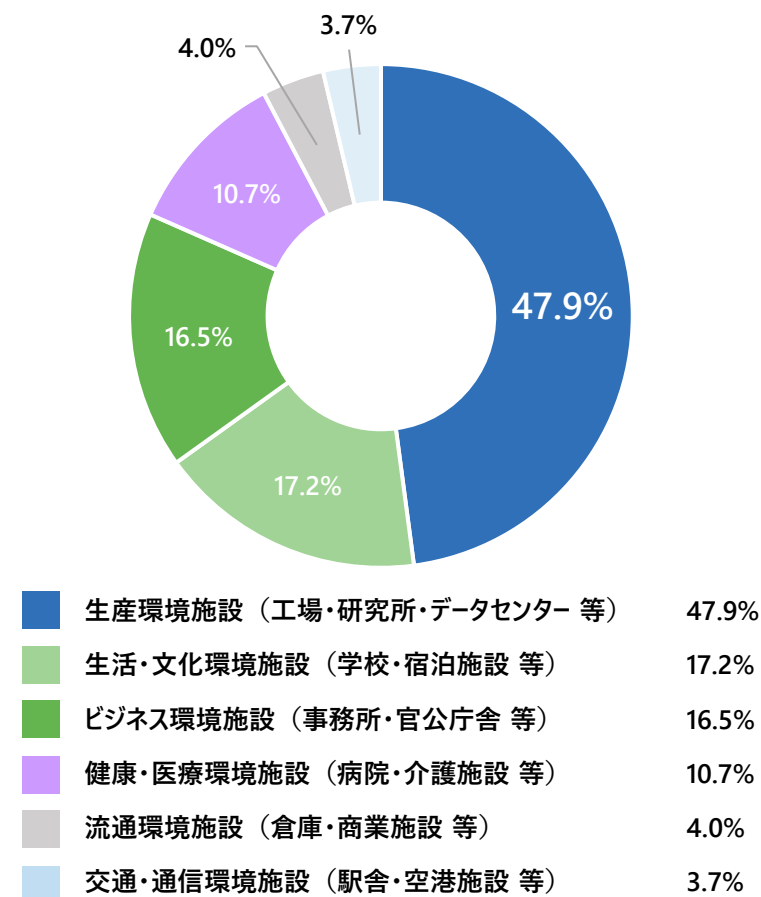
給排水・衛生・消火設備

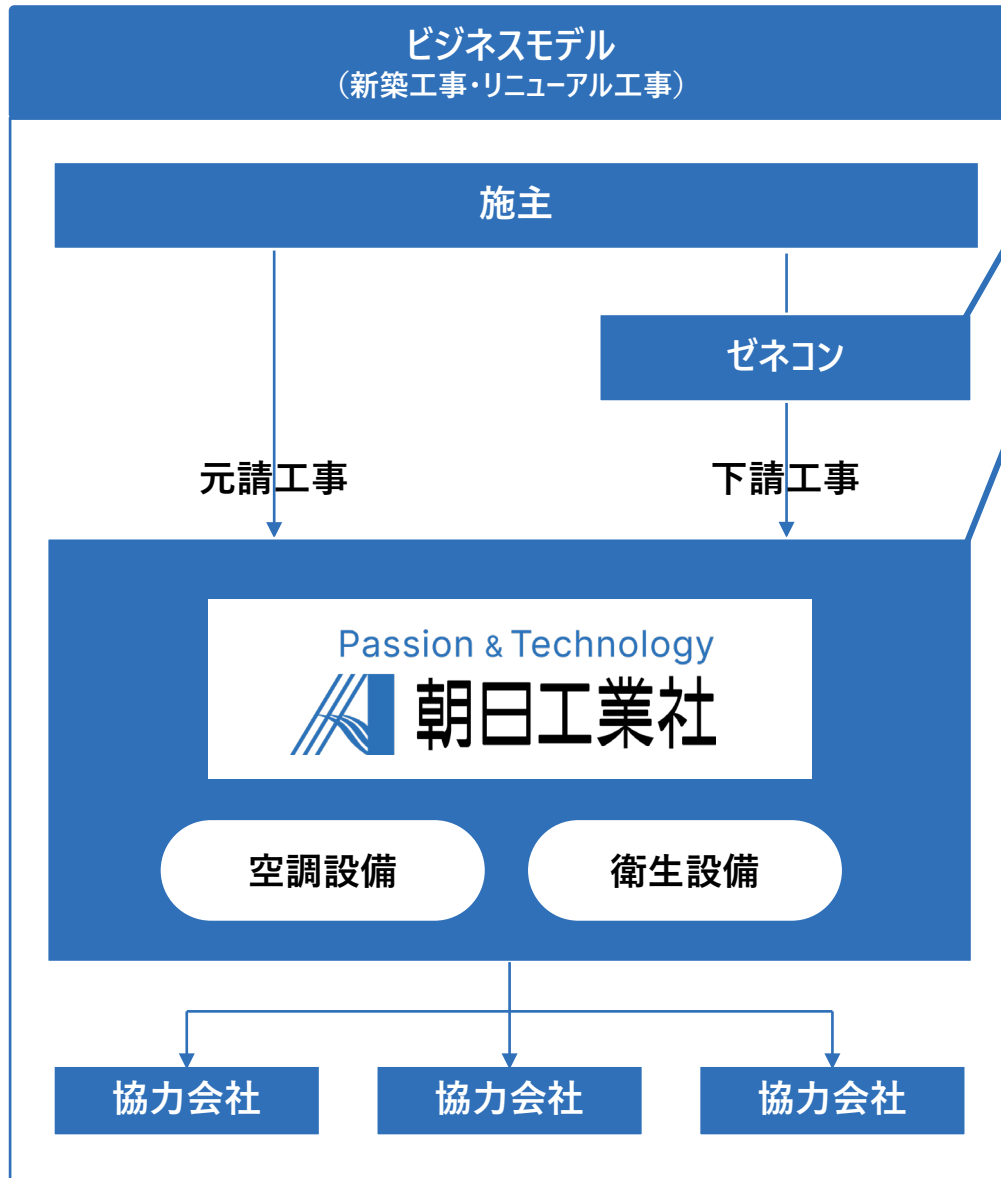


工場配管・乾燥・除塵設備



設備工事業の売上高構成比 (2026年3月期)





業界での立ち位置

総合建設会社（ゼネコン）

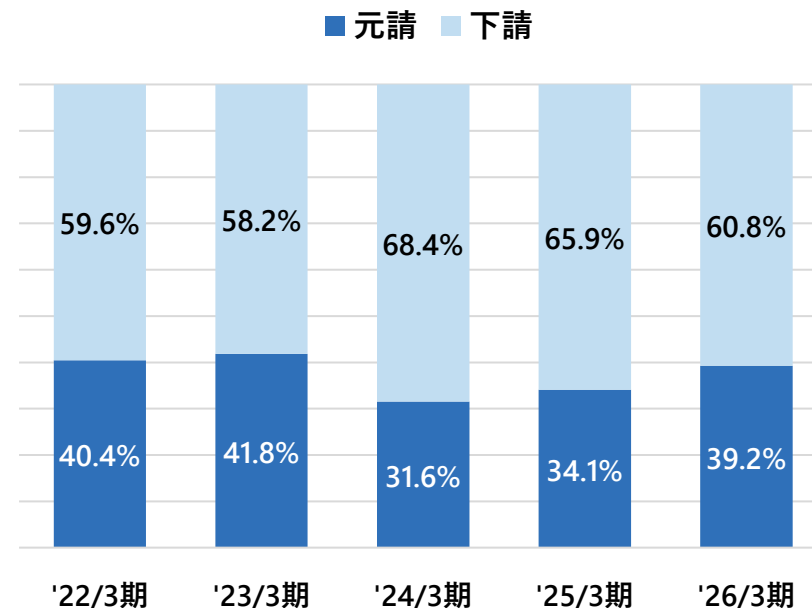
建物の基礎となる土木、建築工事の総合的な取りまとめを行う。

設備工事会社



建物内部の空調、衛生、電気などの設備工事の取りまとめを行う。

元請・下請工事比率（売上高ベース）



ビジネス環境施設

事務所・官公庁舎 等



世界貿易センタービルディング南館

交通・通信環境施設

駅舎・空港施設 等



広島駅南口ビル（minamoa）

生活・文化環境施設

学校・宿泊施設 等



ヒルトン横浜

健康・医療環境施設

病院・介護施設 等



©株式会社 伸和

近畿大学病院
（外来棟・臨床研究棟・ペDESTリアンデッキ）

流通環境施設

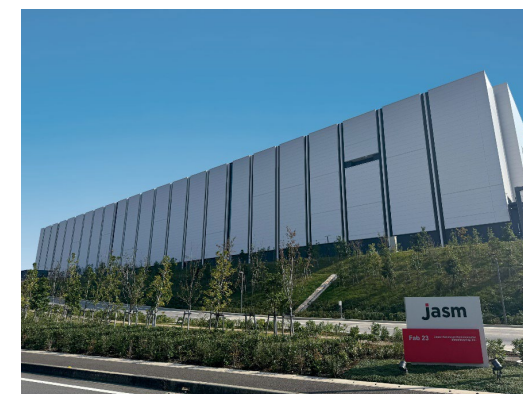
倉庫・商業施設 等



渋谷サクラステージSAKURAサイド

生産環境施設

工場・研究所・データセンター 等



JASM 第一工場

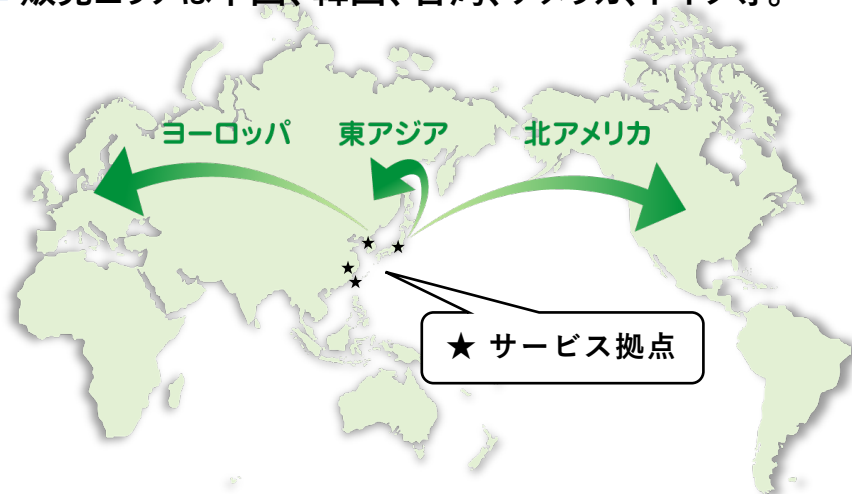
- 半導体・FPD・電子分野向けを中心とした精密環境制御機器ならびにドライヤ装置の開発設計・製造・販売。
- OEM供給を主体とした事業展開による高度な技術力の蓄積と、設備工事事業とのシナジー創出。

機器製造販売事業の概要

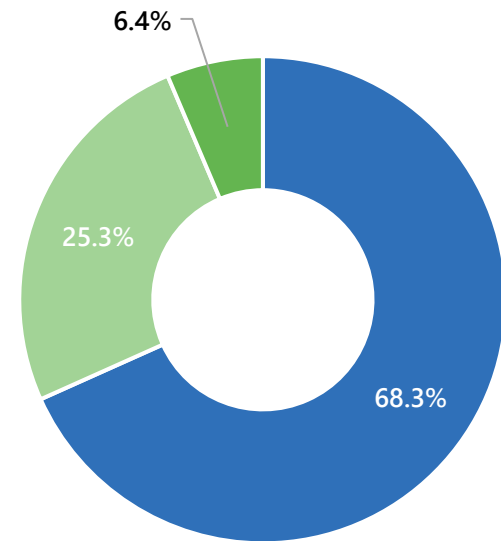
設 立	1984年1月
開発・製造拠点	機器事業部・豊富工場（2007年5月～）
所在地	千葉県船橋市豊富町616-8
敷地面積	26,785㎡

納入実績

- 11,400ユニット以上の累計製品出荷数を誇る。
- 販売エリアは中国、韓国、台湾、アメリカ、ドイツ等。



機器製造販売事業の売上高構成比（2026年3月期）



FPD関連	68.3%
半導体関連	25.3%
ドライヤ関連他	6.4%

主な製品

・半導体露光装置用エンバイロメンタルチャンバ



・FPD露光装置用エンバイロメンタルチャンバ



・精密空調機ASCシリーズ



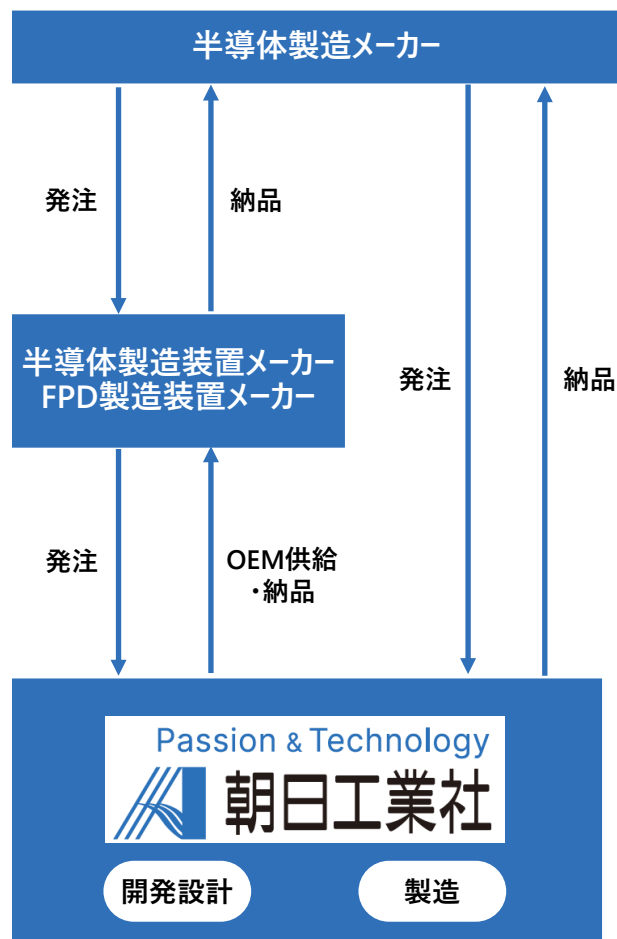
・ドライヤ装置（外観）



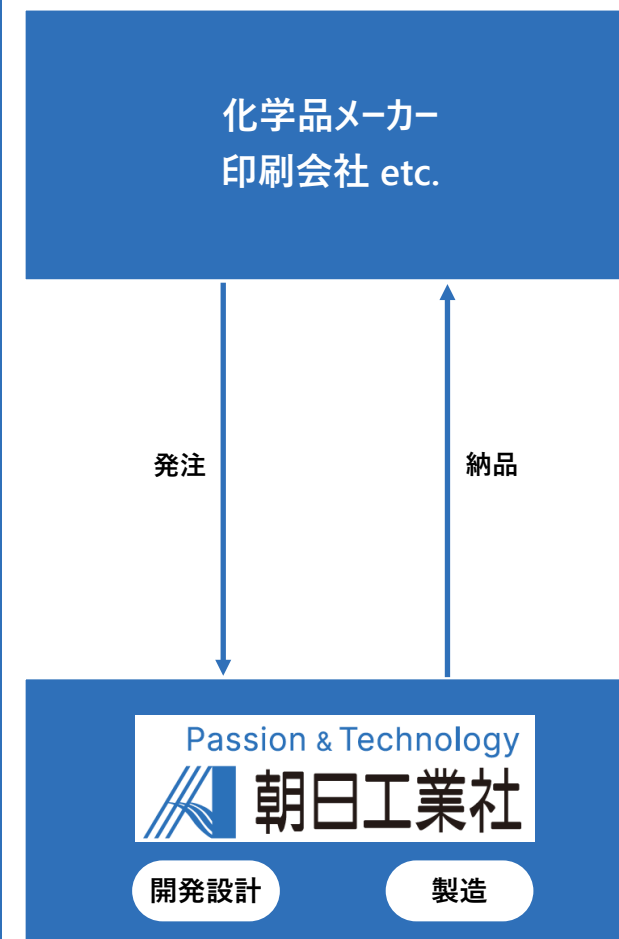
・その他

クリスタルジェット、高効率顕熱空調機など

ビジネスモデル① (精密環境制御機器の場合)



ビジネスモデル② (ドライヤ装置の場合)

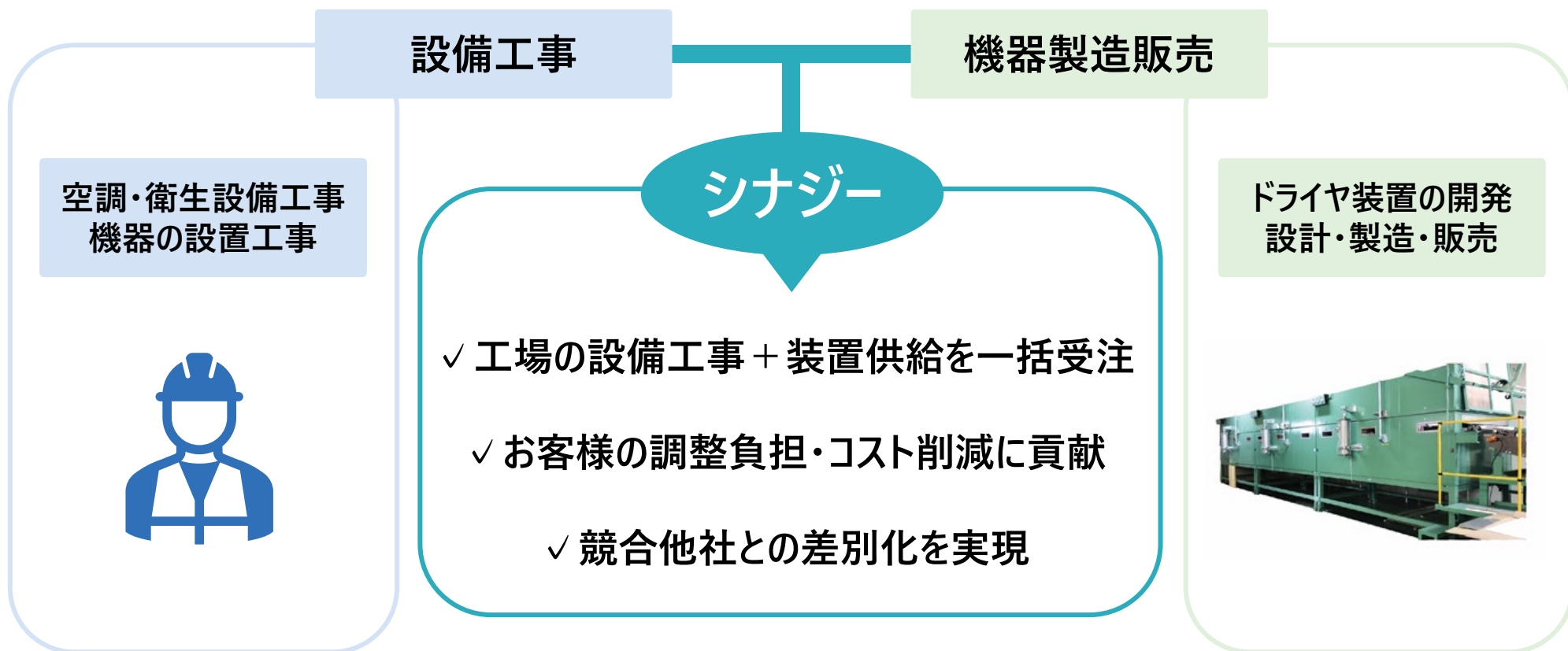




2. 朝日工業社の強み

- 同業で唯一、機器製造販売事業というメーカー機能を有し、設備と機器の両面からお客様をサポート。
- 他社にない一社完結型ソリューションを提供。

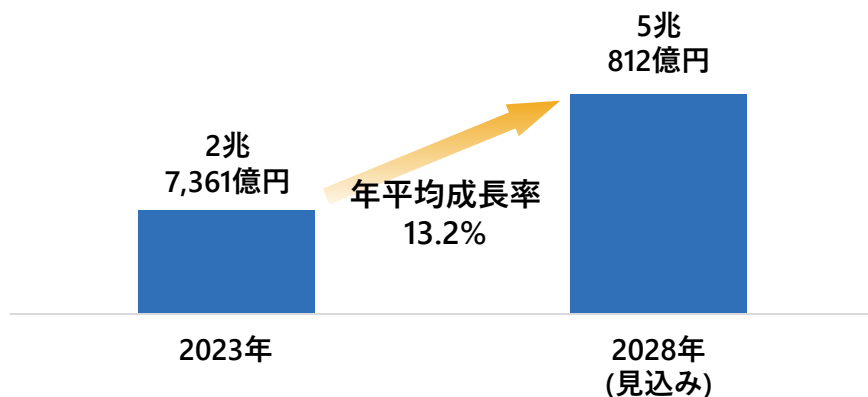
実績事例：化学品メーカーの工場



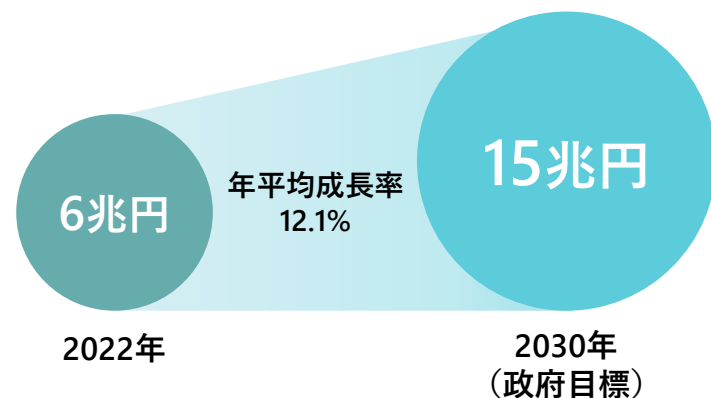
高度な技術を活かした高付加価値サービスによる受注拡大

- データセンター・半導体市場の伸長を背景に、**生産環境施設の受注高は5年間で2.2倍に成長**。
- 引き続き、高度な技術力を要する生産環境施設（工場・研究所・データセンター等）での受注拡大を目指す。

データセンターサービスの国内市場規模（売上高）予測

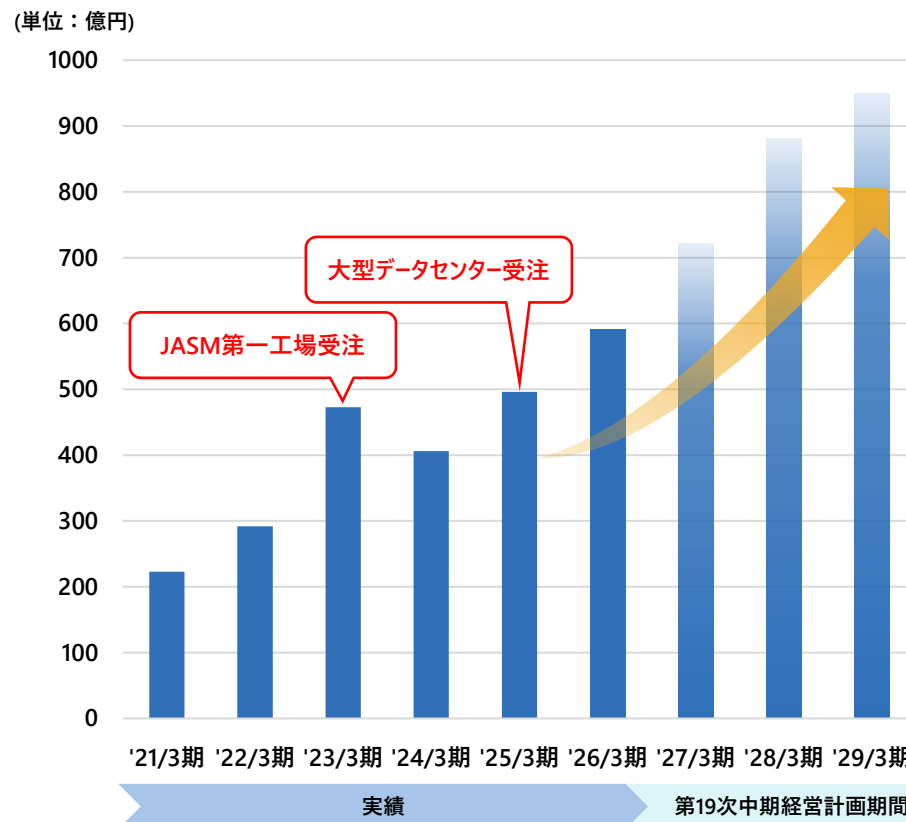


国内で半導体を生産する企業の合計売上高



生産環境施設の受注高および見通し

5年間で **2.2倍** に成長。今後も受注の拡大を目指す。

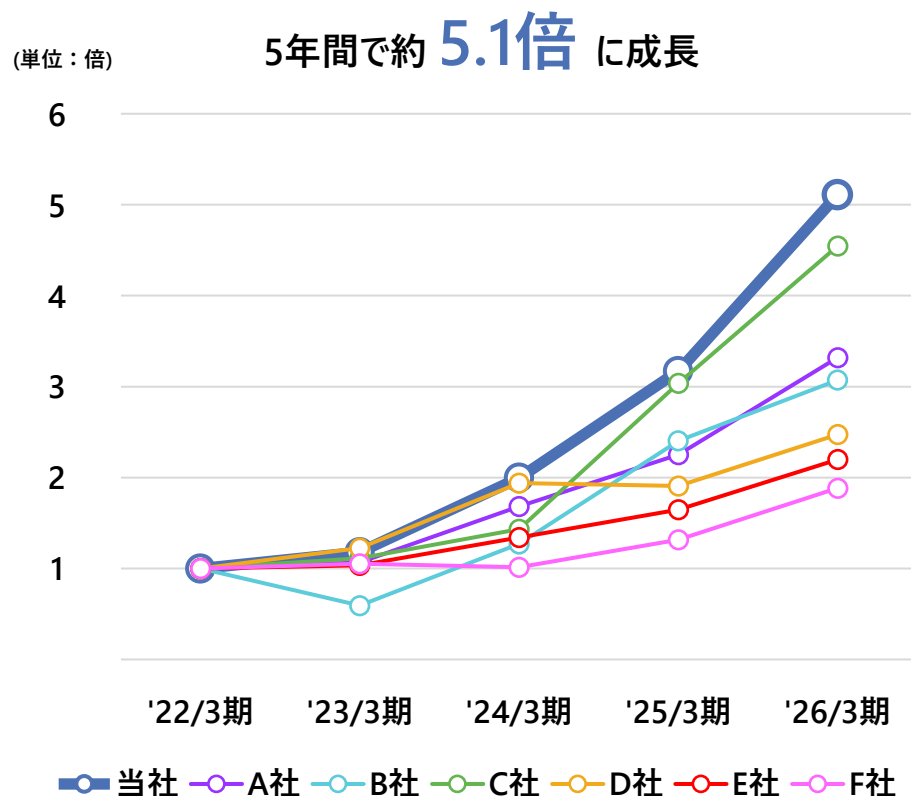


直近5年間の営業利益・営業利益率の改善

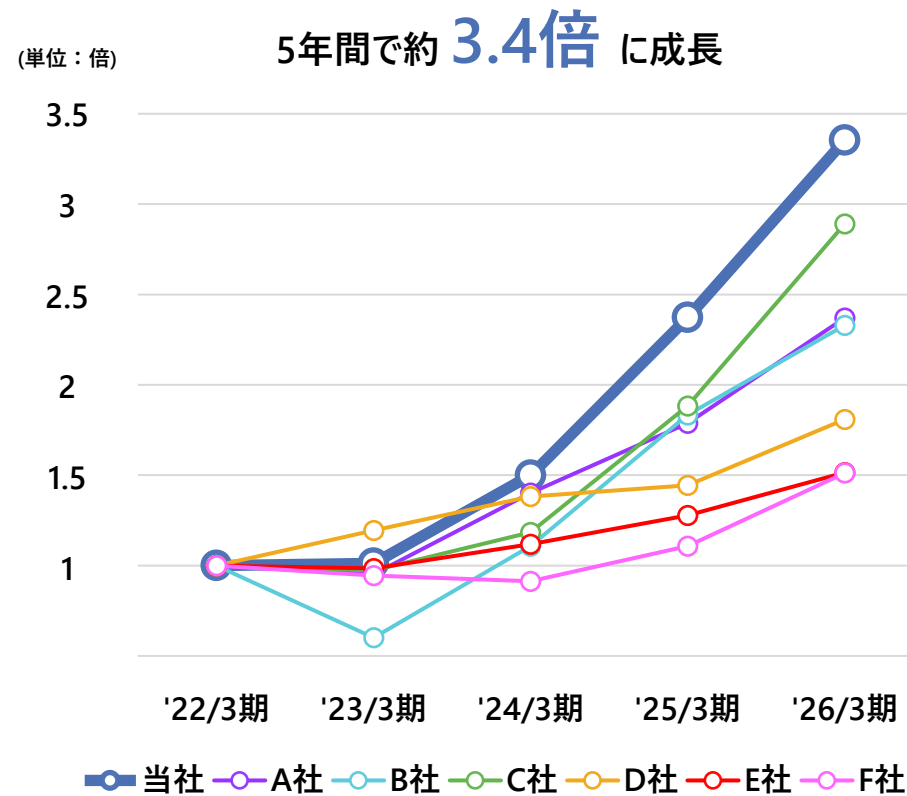
5年間の営業利益、営業利益率の「**成長率**」は業界トップクラス。

高度な環境制御技術を生かした高付加価値案件への注力により、利益率向上を図る。

営業利益の成長率



営業利益率の成長率



注釈(1)：2022年3月期の営業利益・営業利益率を1とした指数の推移です。

注釈(2)：A社からF社は、空調・衛生設備專業の大手6社(東証プライム上場)のいずれかを示しております。



3. 業績・資本政策・株主還元

2026年3月期 連結決算概要

- 受注高は、生産環境施設を中心に、旺盛な建設需要を受けて大幅に伸長。
- 売上高は、豊富な手持工事の着実な進捗により、**1,000億円を突破。**
- 売上総利益以下の各段階利益は、
全体的な受注時採算性および工事利益率の向上により前年を大きく上回り、**過去最高益を更新。**

(単位：百万円)	'24/3期	'25/3期	'26/3期		
	実績	実績	実績	前年比	増減率 (%)
受注高	97,586	93,098	116,496	23,397	25.1
次期繰越高	88,290	89,441	101,114	11,673	13.1
売上高	91,676	91,947	104,823	12,876	14.0
売上総利益	11,652	15,357	21,446	6,089	39.7
利益率	12.7%	16.7%	20.5%	3.8pt	-
販売費及び一般管理費	7,084	8,108	9,763	1,655	20.4
営業利益	4,568	7,248	11,682	4,434	61.2
利益率	5.0%	7.9%	11.1%	3.2pt	-
営業外損益	328	334	348	14	4.2
経常利益	4,896	7,582	12,031	4,448	58.7
利益率	5.3%	8.2%	11.5%	3.3pt	-
特別損益	236	1,043	437	△605	△58.0
親会社株主に帰属する当期純利益	3,712	6,229	9,240	3,011	48.3
利益率	4.0%	6.8%	8.8%	2.0pt	-

2027年3月期 連結業績予想

- 受注高は、施工体制を考慮し、前期実績と同水準で推移。
- 売上高は、豊富な繰越高を背景に、増加見込み。
- 各段階利益は、引き続き高水準を維持し、前期から増加する見込み。

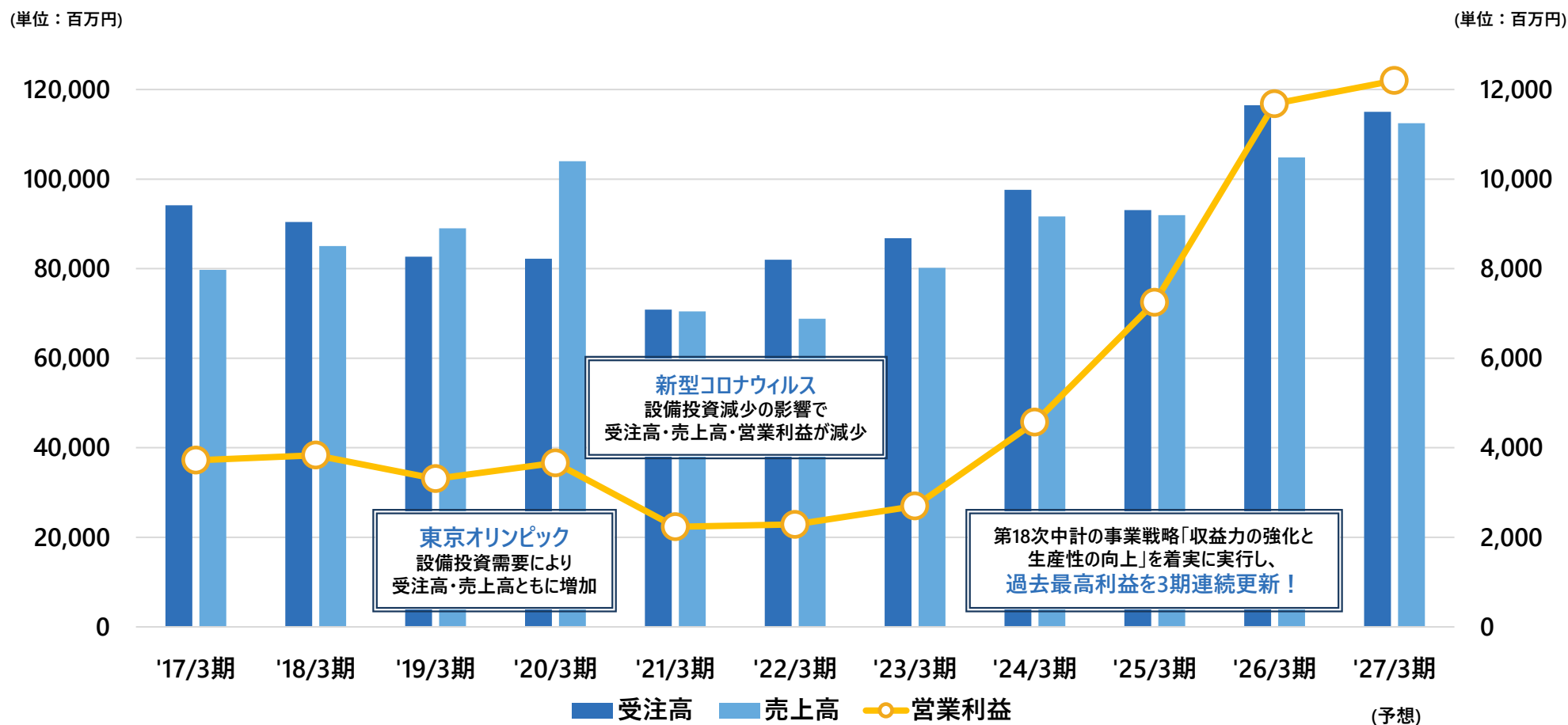
(単位：百万円)

	'24/3期	'25/3期	'26/3期	'27/3期		
	実績	実績	実績	予想	前年比	増減率 (%)
受注高	97,586	93,098	116,496	115,000	△1,496	△1.3
次期繰越高	88,290	89,441	101,114	103,614	2,500	2.5
売上高	91,676	91,947	104,823	112,500	7,677	7.3
売上総利益	11,652	15,357	21,446	22,050	604	2.8
利益率	12.7%	16.7%	20.5%	19.6%	△0.9pt	-
営業利益	4,568	7,248	11,682	12,200	518	4.4
利益率	5.0%	7.9%	11.1%	10.8%	△0.3pt	-
経常利益	4,896	7,582	12,031	12,400	369	3.1
利益率	5.3%	8.2%	11.5%	11.0%	△0.5pt	-
親会社株主に帰属する当期純利益	3,712	6,229	9,240	9,250	10	0.1
利益率	4.0%	6.8%	8.8%	8.2%	△0.6pt	-

長期業績推移（過去10年間）

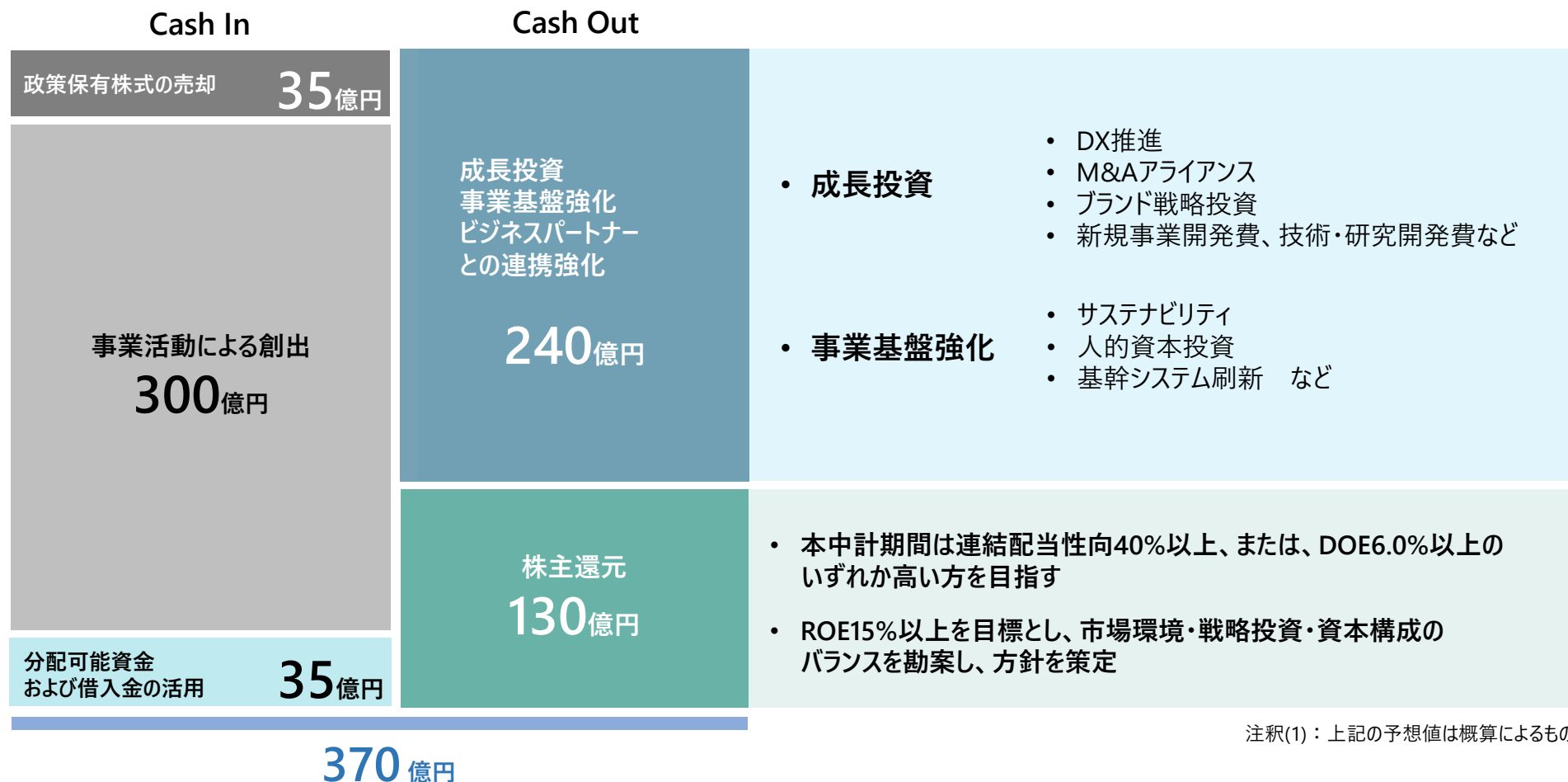
- 外部環境の変動はあるものの、右肩上がりに成長。
- 2027年3月期は、新中期経営計画のもと、さらなる成長を目指し、**4期連続で過去最高益を更新予定。**

受注高・売上高・営業利益 推移



■ 企業価値向上に向け、将来的な成長投資を優先的に実施の上、積極的な株主還元を行う。

第19次中期経営計画（2027/3月期～2029/3月期 累計）



注釈(1)：上記の予想値は概算によるもの

- 株価は直近5カ年で堅調に伸長、ROEは当社が認識する資本コスト7~8%を大きく上回る水準で推移。
- '26/3期は複数の高採算大型案件が大きく進捗し、計画を大幅に上回るROEを達成。第19次中期経営計画期間においては、さらなる企業価値向上に向けた成長投資を実行し、ROE15%以上を達成目標とする方針。

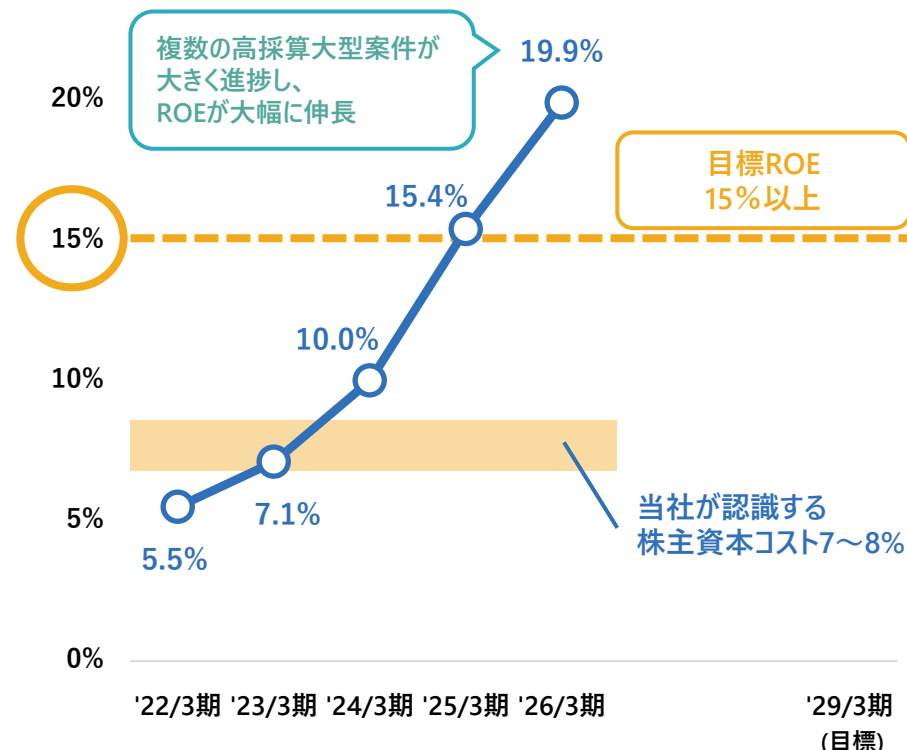
資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

株 価



注釈(1)：株価は、2022年4月1日付及び2024年4月1日付に実施した株式分割（いずれも1株につき2株）を反映した金額で表示しています。

ROE



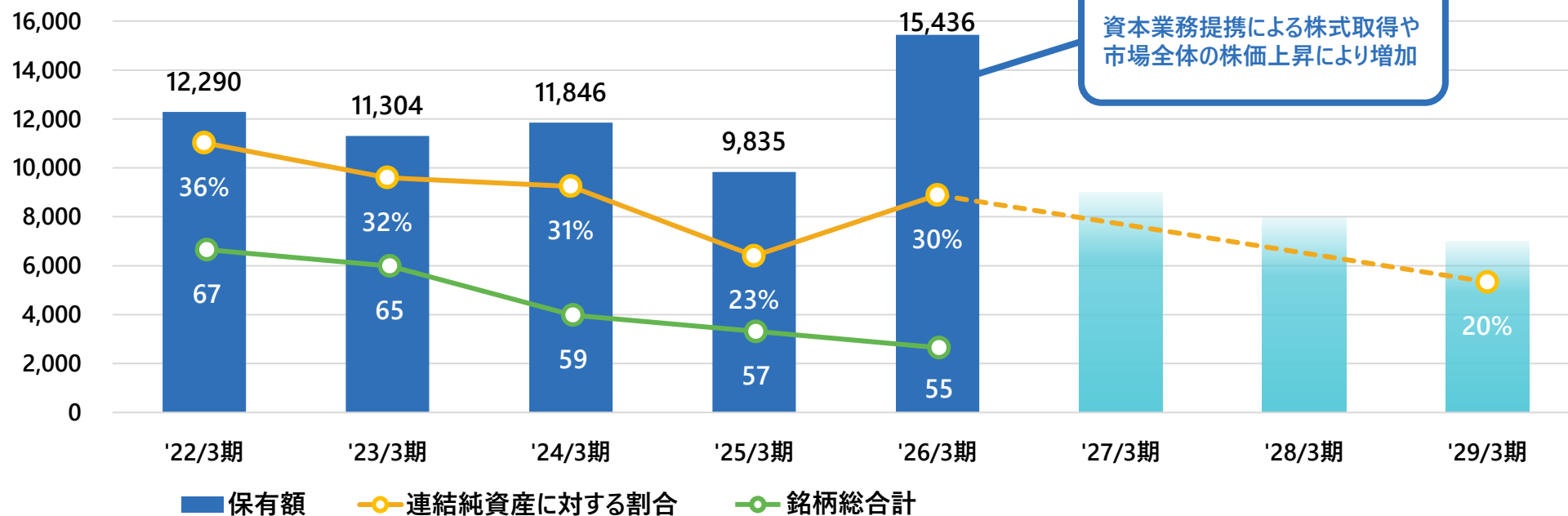
実績

第19次中期経営計画期間

政策保有株式の売却をさらに進め、2029/3月期までに純資産比20%未満へ縮減を目指す。

政策保有株式の縮減

(単位：百万円)



政策保有株式の売却実績

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
売却銘柄数	4銘柄	3銘柄	7銘柄	5銘柄	3銘柄
売却額	459百万円	690百万円	611百万円	1,347百万円	725百万円

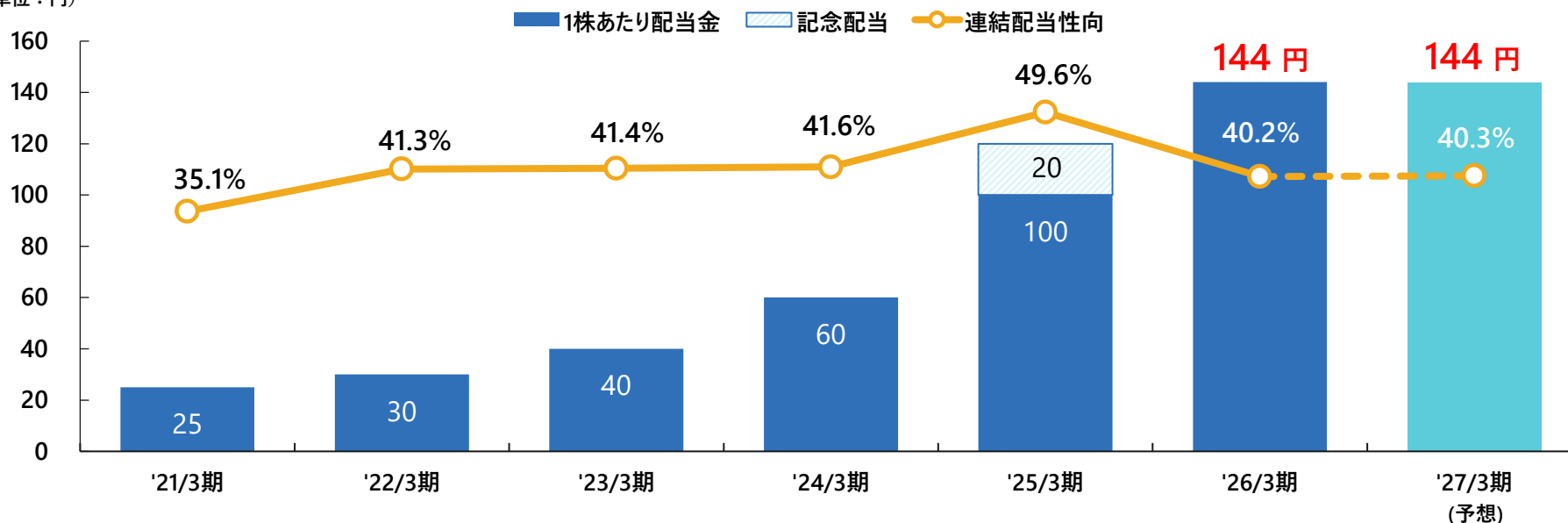
新中期経営計画期間中（2027/3期～2029/3期）は、

- 連結配当性向40%以上に加え、DOE6.0%以上を新たな株主還元指標として設定。
- 安定的かつ継続的な株主還元を実行する方針。

株主還元方針（新中期経営計画期間：2029/3月期まで）

連結配当性向 **40%以上** または **DOE 6.0%以上** のいずれか高い方を設定

（単位：円）



注釈(1)：各期の配当金は、2022年4月1日付及び2024年4月1日付に実施した株式分割（いずれも1株につき2株）を反映した金額で表示しています。

当社の強み

- ◎ 同業で唯一、メーカー機能(機器製造販売事業)を有し、
設備と機器の両面からお客様をサポート
- ◎ 100年で培った技術力を基に、半導体工場やデータセンターを代表とする
生産環境施設分野で強みを発揮

事業の成長性

- ◎ 直近5年間で営業利益・営業利益率を大幅に改善

株価・株主還元

- ◎ 直近5年間で株価は約5倍に上昇
- ◎ 連結配当性向 40%以上 または DOE 6.0%以上の株主還元



4. 新中期経営計画（2027年3月期～2029年3月期）

「ASAHI-VISION 2050」の1st Updateを確実に実行し、飛躍への基盤を構築する

長期ビジョン「ASAHI-VISION 2050」

第18次中期経営計画 (2023～2025年度)

- 収益力の強化、生産性の向上、新たな価値創造に向けたイノベーション展開
- 営業利益は目標を大きく上回る116億円を達成、着実な利益成長を実現

【2026/3月期目標】
営業利益32.5億円
ROE 8%以上

第19次中期経営計画 (2026～2028年度)

- 長期ビジョンの1st Updateを確実に実行し、飛躍への基盤を構築
- 持続的成長に向けた事業構造変革と収益力強化など、重点テーマを実行

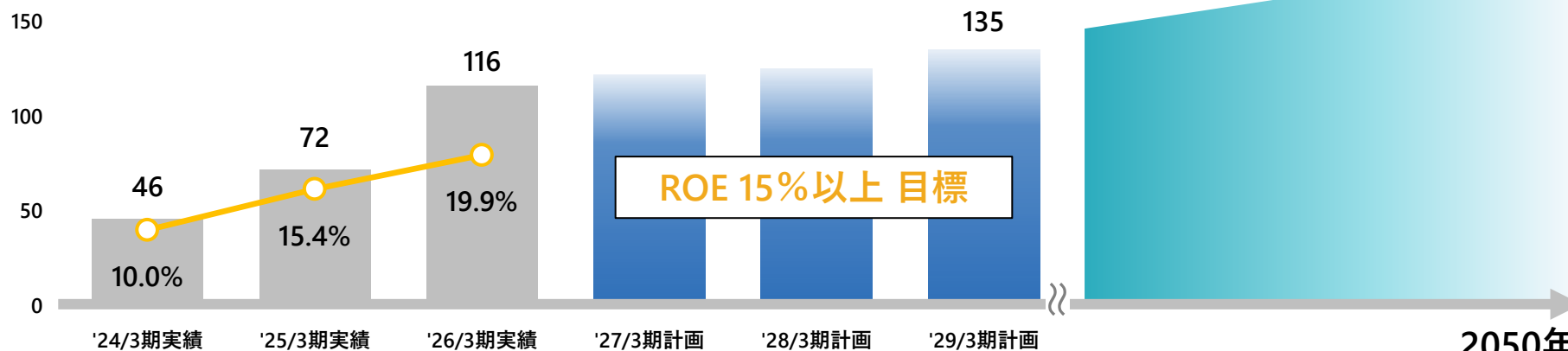
【2029/3月期目標】
営業利益135億円
ROE 15%以上

- 海外事業および新規事業の売上高比率を2040年に10%、2050年に26%まで拡大
- カーボンニュートラル、サステナブル社会の実現への寄与

中長期的な利益成長と
ROE向上を目指す

< 営業利益およびROEの推移 >

(単位：億円)



「ワクワクする未来をカタチ」にするため 「3つのアクション」と「8つの取り組み」を推進する

主な目標経営指標（2029/3月期）

連結売上高
1,250億円

連結営業利益
135億円

ROE 15%以上

DOE 6.0%

Scope1+2削減目標値
▲55.0%（2019年度比）
Scope3削減目標値
▲23.0%（2019年度比）

「3つのアクション」「8つの取り組み」

“ワクワク”する事業 であるためのアクション

技術・研究開発と
新規事業開発への積極的投資

既存事業の強化

海外事業の展開

生産性の向上

社員が“ワクワク”して 活躍できるためのアクション

人材の確保と育成

社員エンゲージメントの向上と
コミュニケーションの活発化

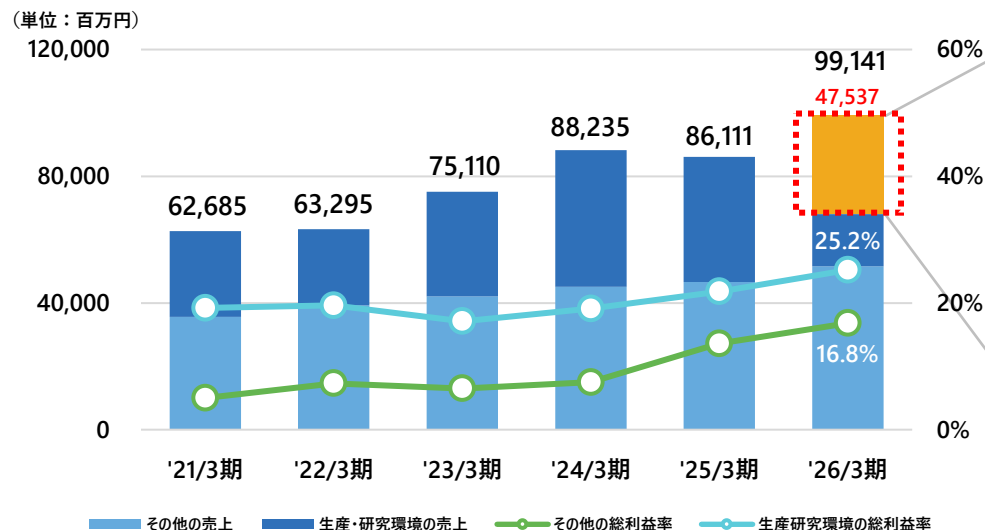
“ワクワク”する会社 であり続けるためのアクション

ブランド力の強化

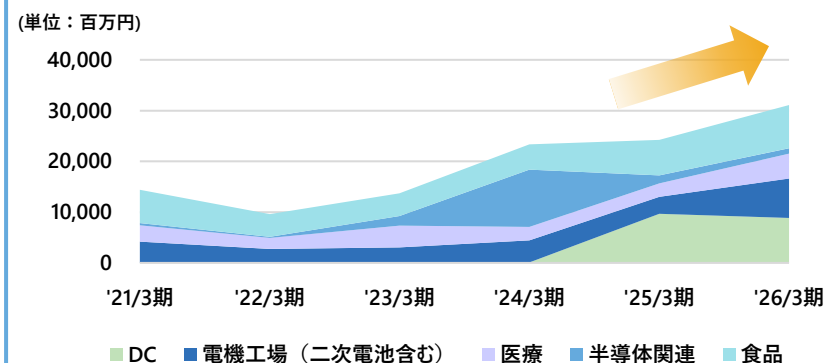
企業としての信頼の確保

重点5分野を中心とした受注の積上げと利益率向上に向けた取り組みを展開し、利益成長を実現

売上高・売上総利益率の推移



重点5分野における売上高



中期経営計画期間中の主な取組み

● 生産環境施設の重点5分野を中心に受注を拡大

- ①DC : ターゲットを決めた戦略受注（ハイパースケール・次世代冷却技術等）
- ②二次電池 : 車載電池およびDC蓄電池領域での新規顧客開拓
- ③医療 : 無菌・バイオ等の先端分野施設の継続的受注
- ④半導体関連 : 生産配管設備を起点に、空調他全般領域を受注
- ⑤食品 : アグリ事業とのシナジーを活かした新規重要顧客のターゲティングと獲得

● 高採算のリニューアル案件獲得による利益率向上（売上高比率50%以上目標）

- － 電気業者や内装業者との協業等

● 元請・下請比率については、状況に応じた最適化を図り、利益最大化に努める

● 現場DXの活用、組立作業のオフサイト拠点集約等により収益力・生産性を向上

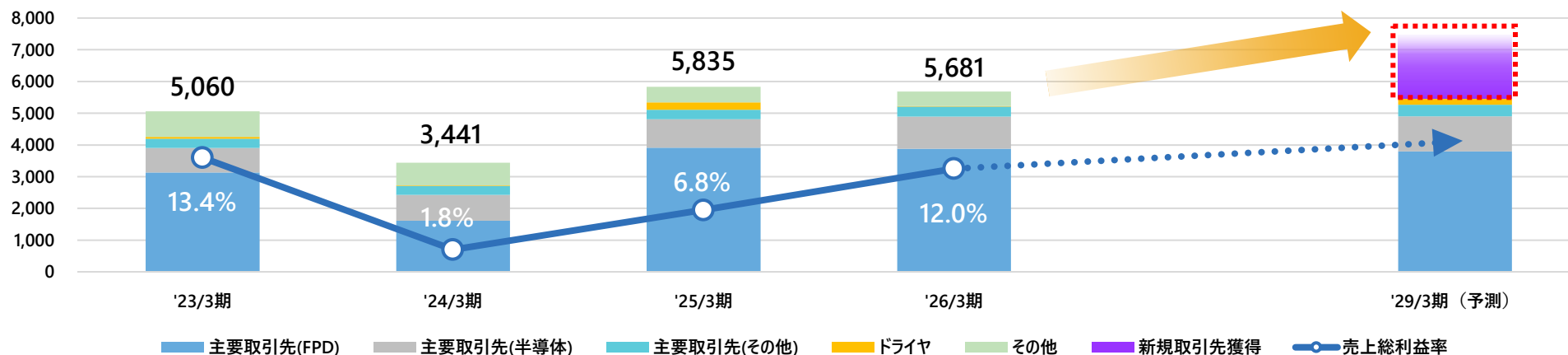
重点5分野	国内外の市場規模予測※ （予測期間）
DC	8.3%（2026～2029）
二次電池	20.8%（2019～2030）
医療	8.2%（2020～2030）
半導体関連	5.9%（2025～2030）
食品	2.9%（2015～2030）
アグリ（植物工場）	27.1%（2025～2040）

注釈(1)：二次電池、食品は世界市場が対象、その他は国内市場を対象

新たな主要取引先の開拓および新商品開発により売上高を拡大させ、業績回復を目指す

売上高推移

（単位：百万円）



中期経営計画期間中の主な取組み

- FPD・半導体製造領域における完全オーダーメイドの製品開発を強化
 - 高度な環境コントロールが必要なFPD・半導体製造領域において、「超精密制御技術」等を活かした完全オーダーメイドの製品開発を強化
 - 品質確保と高処理化を実現する「温度均一化技術」によりFPD製造の最適空間の提供
- 高機能フィルム製造装置への最適空間の提供
 - 当社独自のドライヤ技術により、プラスチックフィルム製造における最適な乾燥空間を構築
- 設備工事事業とのシナジーを活かした、新たな主要取引先の獲得
- これまで既存の主要取引先向けにオーダーメイドによる受注を拡大してきた実績をベースに、新たな主要取引先を獲得

対象業界	国内外の市場規模予測※ （予測期間）
FPD製造装置	10.9% （2025～2027）
半導体製造装置	6.9% （2025～2027）
プラスチックフィルム	4.2% （2025～2030）

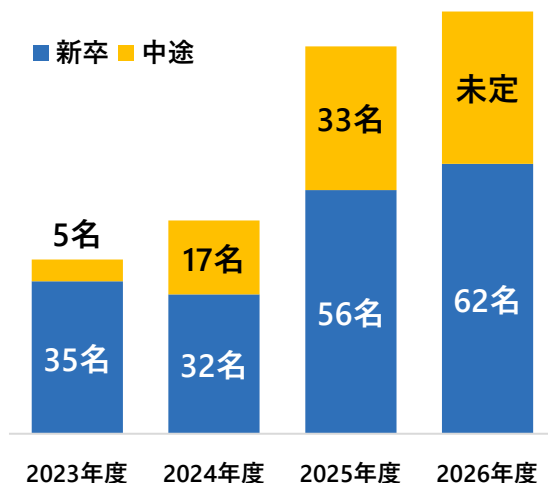
注釈(1)： FPD・半導体製造装置:日系企業の国内・海外販売高 プラスチックフィルム:国内市場

人材への積極的な投資により、未来を見据えた中長期的な成長の実現を目指す

採用活動の強化

- 3年連続で採用人数増加
- 2025年度は目標達成率160%以上
- リファラル採用などを中心とした新たな採用手法拡充と規程整備
- 今後も積極的な採用を実施するとともに、定年延長によって経験者の確保と技術の伝承を強化

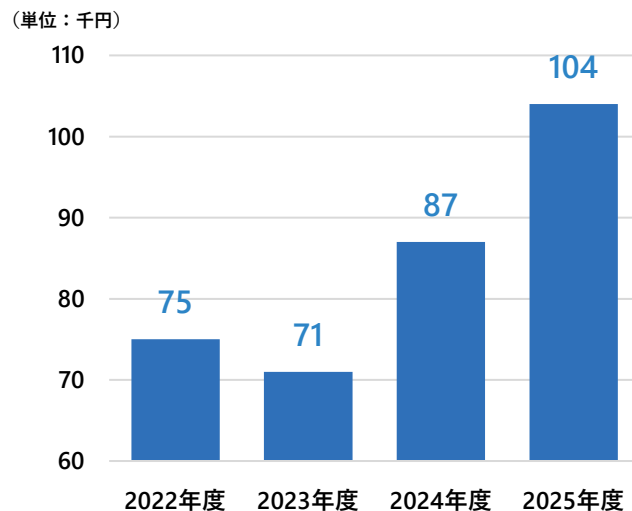
〈 採用人数 〉



従業員教育の拡充

- “採用活動の強化”方針と合わせて、教育の拡充にも注力
- 従業員一人あたりの研修費用は2年連続で増加
- 現場指導者向け研修、管理職向け研修の実施等、研修制度の大幅なリニューアルを実施予定

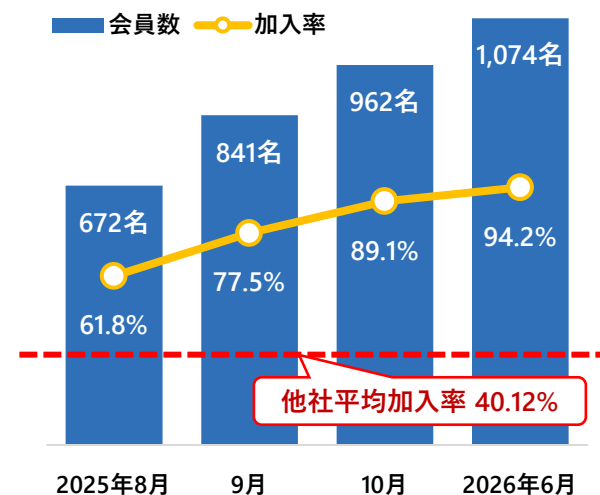
〈 従業員1人あたり研修費用 〉



エンゲージメントの向上

- 2023年度より4年連続で、全従業員に平均約5%以上の賃上げ
- 従業員持株会向け譲渡制限付株式インセンティブ制度を導入
持株会加入率 90%以上を維持
- 今後エンゲージメントサーベイを実施し、指数の向上を目指す

〈 持株会加入状況 〉



- 全社一丸となったアグリビジネス推進及びOishii社との資本業務提携による共同研究・技術開発を推進。
- アグリ分野をフックとした新たな成長ドライバーの確立を目指す。

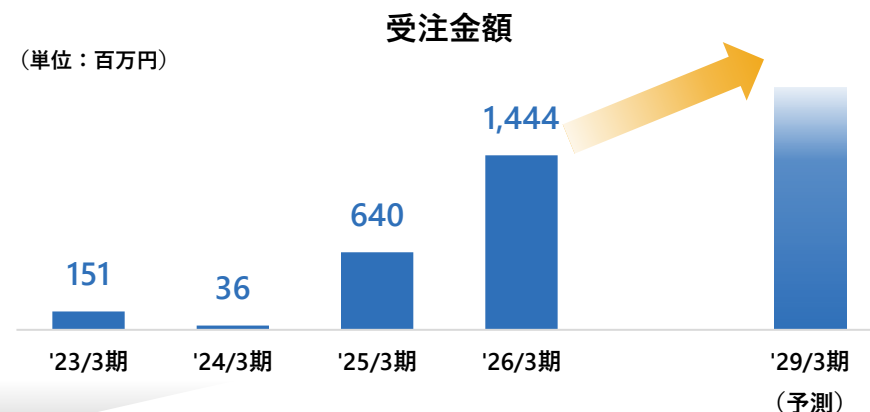
アグリ分野への戦略的出資

- ・米国Oishii Farm Corporationと資本業務提携契約を締結し、約24億円を出資。
- ・植物工場の研究開発施設「オープンイノベーションセンター」(東京都羽村市)で、空調設備含めた植物栽培施設工事一式を当社が受注。

植物工場の市場展望

- 植物工場システムの世界市場規模は2025年の1.5兆円から2040年には55兆円に拡大する見通し。
- 政府は官民投資を進め、2040年にかけて農産物+植物工場システムの国内外市場のシェア3割を目指す方針。

植物工場に係る受注状況



- 急成長が見込める市場環境の中、Oishii社他の国内外投資案件に関与し、アグリ事業を拡大。
- 2025年に完成したつくば技術研究所で空調ソリューションの共同研究・技術開発等を行うことにより次世代のスマート農業ソリューションの創出を目指す。

長期ビジョンで掲げる「ワクワクする未来」の実現に向けた基盤を構築

設備工事事業

- ◎生産環境施設の重点5分野を中心に受注を拡大
- ◎現場DXの活用、組立作業のオフサイト拠点集約等により収益力・生産性を向上

機器製造販売事業

- ◎FPD・半導体製造領域における完全オーダーメイドの製品開発を強化
- ◎設備工事事業とのシナジーを活かした、新たな主要取引先の獲得

新規事業

- ◎全社一丸となったアグリビジネス推進及び、
Oishii社との資本業務提携による共同研究・技術開発を推進



Passion & Technology
 朝日工業社

参考資料

2027年3月期 第1四半期 連結決算概要

- 受注高は、生産環境施設を中心とした旺盛な建設需要を背景に、前年同期を上回る水準。
- 売上高は、複数の高採算大型工事の竣工や手持工事の進捗により、前年同期比で増収。
- 売上総利益以下の各段階利益は、全体的な受注時採算性および工事利益率の向上により、前年同期を上回る水準。
1Qは超大型物件の竣工はなかったものの、竣工件数が多く、竣工に近づくにつれて利益が計上される傾向があることから、高水準の利益を確保。

(単位：百万円)	'25/3期	'26/3期	'27/3期		
	1Q	1Q	1Q	前年同期比	増減率 (%)
受注高	21,087	31,261	36,232	4,971	15.9
繰越高	90,906	103,025	117,864	14,838	14.4
売上高	18,471	17,677	19,483	1,805	10.2
売上総利益	2,554	3,914	4,534	620	15.8
利益率	13.8%	22.1%	23.3%	1.2pt	-
販売費及び一般管理費	1,663	2,026	2,329	302	14.9
営業利益	890	1,887	2,205	317	16.8
利益率	4.8%	10.7%	11.3%	0.6pt	-
営業外損益	178	181	129	△52	△29.1
経常利益	1,069	2,069	2,334	265	12.8
利益率	5.8%	11.7%	12.0%	0.3pt	-
特別損益	△2	△11	0	11	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	708	1,390	1,546	156	11.3
利益率	3.8%	7.9%	7.9%	0pt	-

四半期業績の推移①

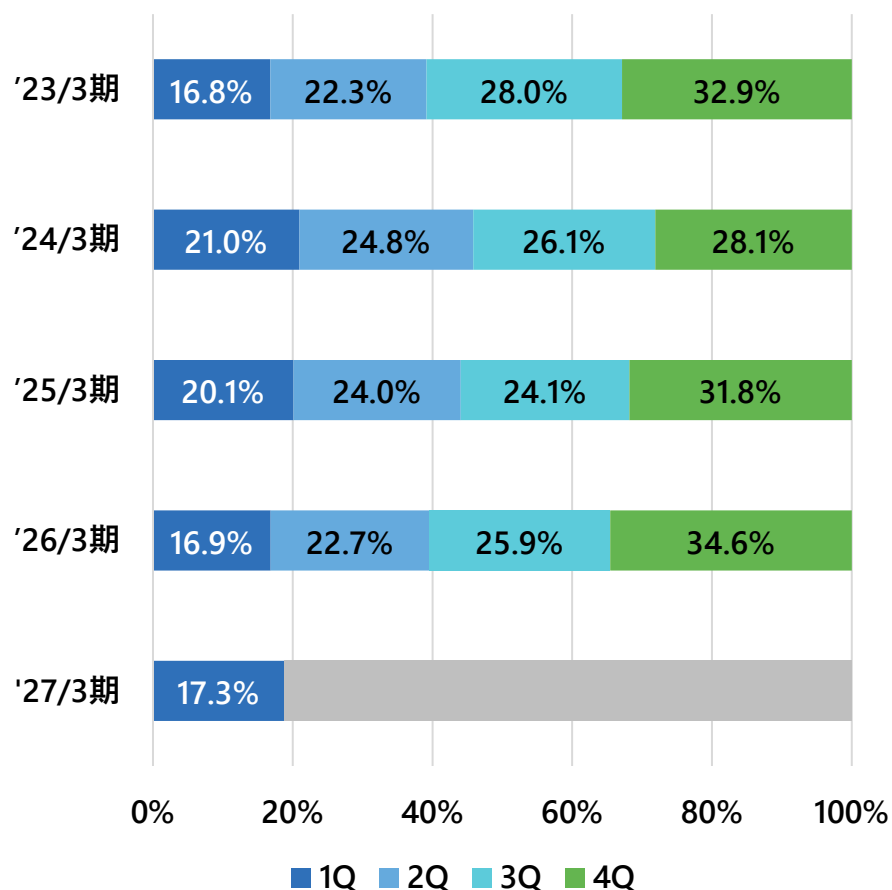
- 受注高は、データセンター、リゾートホテル、工場、研究施設等の大型受注が相次ぎ、例年の1Qと比べて高水準で推移。
- 売上高は、エネルギー関連工場の竣工や、データセンター工事の進捗等により、例年の1Qを上回る水準。
- 各段階利益は、複数の高採算大型工事の寄与により、例年の1Qを上回る水準で推移。
- 販売費及び一般管理費は、人件費の増加により増加したものの、売上総利益の増加により吸収。

(単位：百万円)	'25/3期				'26/3期				'27/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
受注高	21,087	16,101	27,813	28,095	31,261	25,105	24,546	35,582	36,232
売上高	18,471	22,031	22,174	29,271	17,677	23,764	27,126	36,255	19,483
売上総利益	2,554	3,664	3,226	5,911	3,914	4,223	4,915	8,392	4,534
利益率	13.8%	16.6%	14.6%	20.3%	22.1%	17.8%	18.1%	23.2%	23.3%
販売費及び一般管理費	1,663	1,758	1,975	2,711	2,026	2,020	2,606	3,110	2,329
営業利益	890	1,906	1,251	3,199	1,887	2,203	2,308	5,282	2,205
利益率	4.8%	8.7%	5.6%	10.9%	10.7%	9.3%	8.5%	14.6%	11.3%
営業外損益	178	32	168	△45	181	3	114	48	129
経常利益	1,069	1,939	1,419	3,153	2,069	2,207	2,423	5,330	2,334
利益率	5.8%	8.8%	6.4%	10.8%	11.7%	9.3%	8.9%	14.7%	12.0%
特別損益	△2	487	0	558	△11	497	△17	△30	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	708	1,654	962	2,904	1,390	1,821	1,655	4,373	1,546
利益率	3.8%	7.5%	4.3%	9.9%	7.9%	7.7%	6.1%	12.1%	7.9%

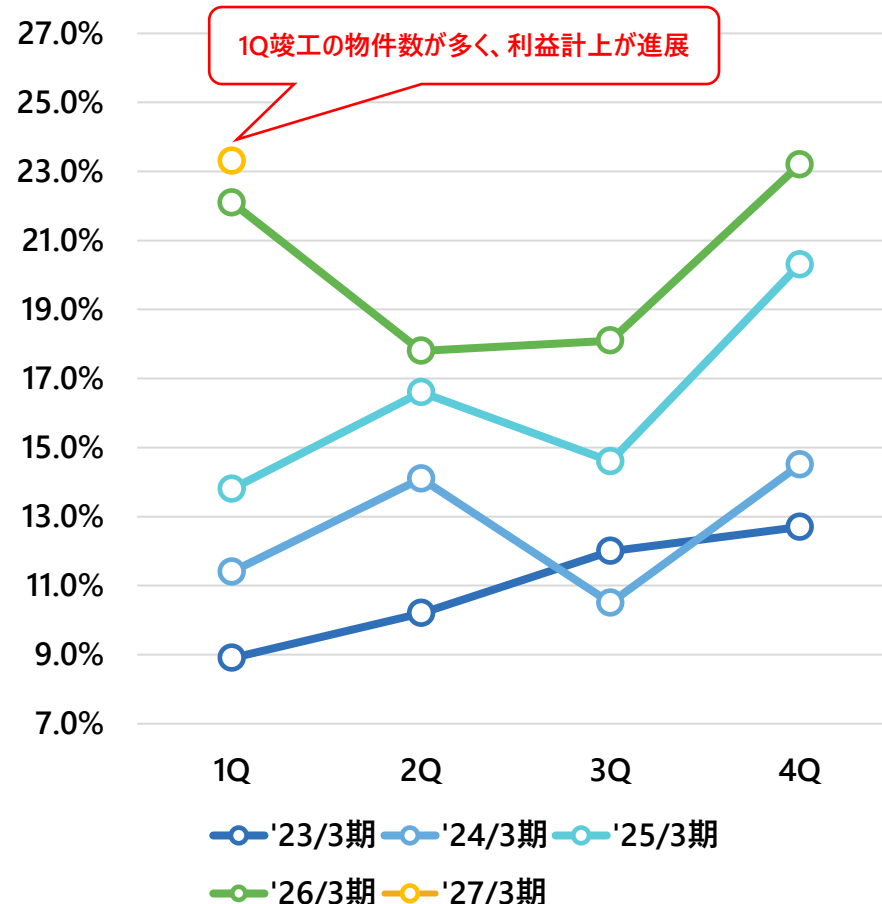
四半期業績の推移②

- 売上高は、通期予想に対し概ね計画どおりの進捗。例年同様、1Qから4Qにかけて段階的に増加する見込み。
- 売上総利益率は、前年同期も高水準だったが、これを上回る高水準で着地。
2027年3月期は、1Qの竣工物件が多く、建設業では竣工に向けて利益計上が進む傾向があるため、利益が高水準となった。

四半期毎の売上進捗率



四半期毎の売上総利益率 推移



- 設備工事事業については、
活発な設備投資需要を取り込み、受注高、売上高、営業利益のすべてで前年同期を上回る。
- 機器製造販売事業については、主要取引先の生産計画調整の影響を受け、前年同期比で減少。
第19次中期経営計画の方針に沿い、設備工事事業とのシナジーを活かした新規主要取引先の獲得等に取り組む。

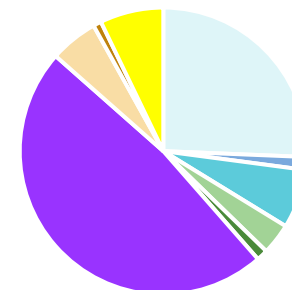
(単位：百万円)	'25/3期	'26/3期	'27/3期		
	1Q	1Q	1Q	前年同期比	増減率 (%)
設備工事事業					
受注高	18,244	30,045	35,204	5,159	17.2
売上高	17,151	16,356	18,668	2,312	14.1
営業利益	996	1,912	2,242	330	17.3
営業利益率	5.8%	11.7%	12.0%	0.3pt	-
機器製造販売事業					
受注高	2,843	1,216	1,028	△187	△15.4
売上高	1,319	1,321	814	△507	△38.4
営業利益	△105	△25	△37	△12	-
営業利益率	△8.0%	△1.9%	△4.5%	△2.6pt	-
受注高合計	21,087	31,261	36,232	4,971	15.9
売上高合計	18,471	17,677	19,483	1,805	10.2
営業利益合計	890	1,887	2,205	317	16.8

セグメント別実績 受注高

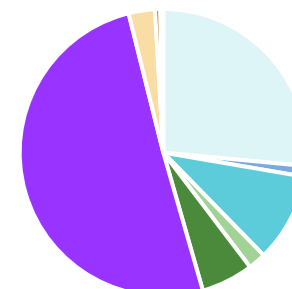
- 全体の受注高は、前年同期比で増加。
- 設備工事業は、大型リゾートホテルや大学施設の受注により生活・文化環境施設が増加したほか、データセンターをはじめとする生産環境施設の受注が積み上がり、増加。
- 機器製造販売事業は、主要取引先の生産調整の影響を受け、前年同期比で減少。

(単位：百万円)		受注高				
		'25/3期 1Q	'26/3期 1Q	'27/3期 1Q	前年 同期比	増減率 (%)
設備工事業	ビジネス環境施設 (事務所・官公庁舎 等)	5,409	8,283	4,106	△4,177	△50.4
	交通・通信環境施設 (駅舎・空港施設 等)	305	375	338	△37	△9.9
	生活・文化環境施設 (学校・宿泊施設 等)	1,404	3,121	7,302	4,181	134.0
	健康・医療環境施設 (病院・介護施設 等)	742	623	750	127	20.4
	流通環境施設 (倉庫・商業施設 等)	268	1,839	336	△1,503	△81.7
	生産環境施設 (工場・研究所・データセンター 等)	10,116	15,804	22,372	6,568	41.6
機器製造販売	FPD (液晶) 関連	1,141	926	841	△85	△9.2
	半導体関連	193	186	107	△79	△42.5
	ドライヤ関連他	1,509	104	80	△24	△23.1
合計		21,087	31,261	36,232	4,971	15.9

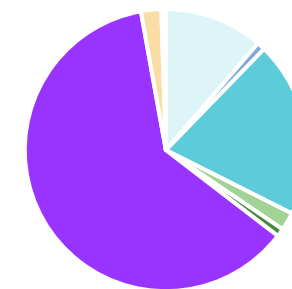
'25/3期 1Q



'26/3期 1Q



'27/3期 1Q



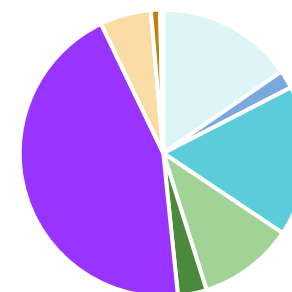
■ ビジネス
 ■ 交通・通信
 ■ 生活・文化
 ■ 健康・医療
 ■ 流通
 ■ 生産
 ■ FPD
 ■ 半導体
 ■ ドライヤ他

セグメント別実績 売上高

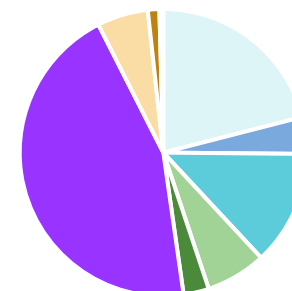
- 全体の売上高は、前年同期比で増加。
- 設備工事業は、リゾートホテルや学校等の工事進捗により生活文化環境が増加したほか、大型病院の竣工により健康・医療環境施設が増加。さらに、エネルギー関連工場の竣工や、データセンター工事の進捗等により、生産環境施設が増加。
- 機器製造販売事業は、主要取引先の生産調整の影響を受け、前年同期比で減少。

(単位：百万円)		売上高				
		'25/3期 1Q	'26/3期 1Q	'27/3期 1Q	前年 同期比	増減率 (%)
設備工事業	ビジネス環境施設 (事務所・官公庁舎 等)	2,839	3,713	2,243	△1,470	△39.6
	交通・通信環境施設 (駅舎・空港施設 等)	381	732	157	△575	△78.6
	生活・文化環境施設 (学校・宿泊施設 等)	3,133	2,285	2,839	554	24.2
	健康・医療環境施設 (病院・介護施設 等)	1,982	1,203	1,701	498	41.4
	流通環境施設 (倉庫・商業施設 等)	599	505	520	15	3.0
	生産環境施設 (工場・研究所・データセンター 等)	8,218	7,918	11,208	3,290	41.6
機器製造販売	FPD (液晶) 関連	1,062	1,015	613	△402	△39.6
	半導体関連	191	229	123	△106	△46.3
	ドライヤ関連他	66	77	78	1	1.4
合計		18,471	17,677	19,483	1,805	10.2

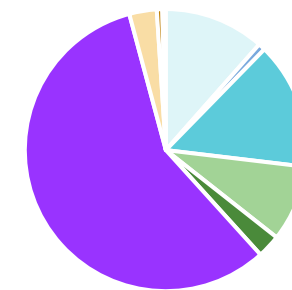
'25/3期 1Q



'26/3期 1Q



'27/3期 1Q



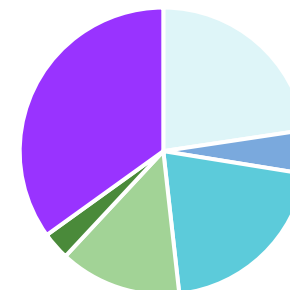
■ ビジネス
 ■ 交通・通信
 ■ 生活・文化
 ■ 健康・医療
 ■ 流通
 ■ 生産
 ■ FPD
 ■ 半導体
 ■ ドライヤ他

- 全体の繰越高は、前年同期から15.4%増加し、今年度以降の業績を支える豊富な工事量を確保。
- 大型リゾートホテル（生活・文化環境）や、首都圏再開発（ビジネス環境）に加え、データセンターをはじめとする生産環境施設での大型工事を予定している。

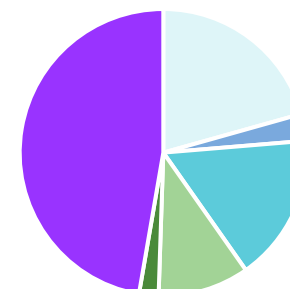
(単位：百万円)

	繰越高				
	'25/3期 1Q	'26/3期 1Q	'27/3期 1Q	前年 同期比	増減率 (%)
ビジネス環境施設 (事務所・官公庁舎 等)	18,975	19,829	20,095	266	1.3
交通・通信環境施設 (駅舎・空港施設 等)	4,117	2,913	544	△2,369	△81.3
生活・文化環境施設 (学校・宿泊施設 等)	17,336	15,913	24,714	8,801	55.3
健康・医療環境施設 (病院・介護施設 等)	11,496	9,869	5,219	△4,650	△47.1
流通環境施設 (倉庫・商業施設 等)	2,631	2,107	215	△1,892	△89.8
生産環境施設 (工場・研究所・データセンター 等)	29,281	45,407	60,008	14,601	32.2
合計	83,837	96,038	110,795	14,758	15.4

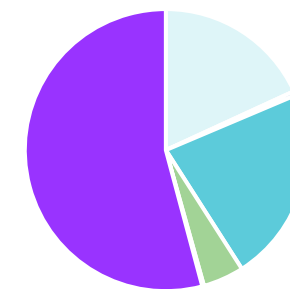
'25/3期 1Q



'26/3期 1Q



'27/3期 1Q



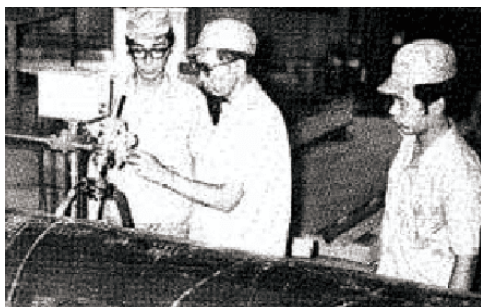
■ ビジネス
■ 健康・医療
■ 交通・通信
■ 流通
■ 生活・文化
■ 生産



創業者 高須茂

1925

1925年
大阪市北区において創業



当時の作業風景

1967年

本社を東京に移転

1960

1980

1983年

技術研究所を開設

1984年

機器事業部を開設

1986年

北海道アサヒ冷熱工事を設立

1996年

台湾に現地企業との合併による
現地法人「亞太朝日股份有限公司」
を設立

1990

2000

2003年

亞太朝日股份有限公司
を完全子会社化

2007年

機器事業部・豊富工場
を開設

2012年

マレーシアに現地法人
「ASAHI ENGINEERING MALAYSIA
SDN.BHD.」を設立

2010

2025



2025年4月3日

創立100周年

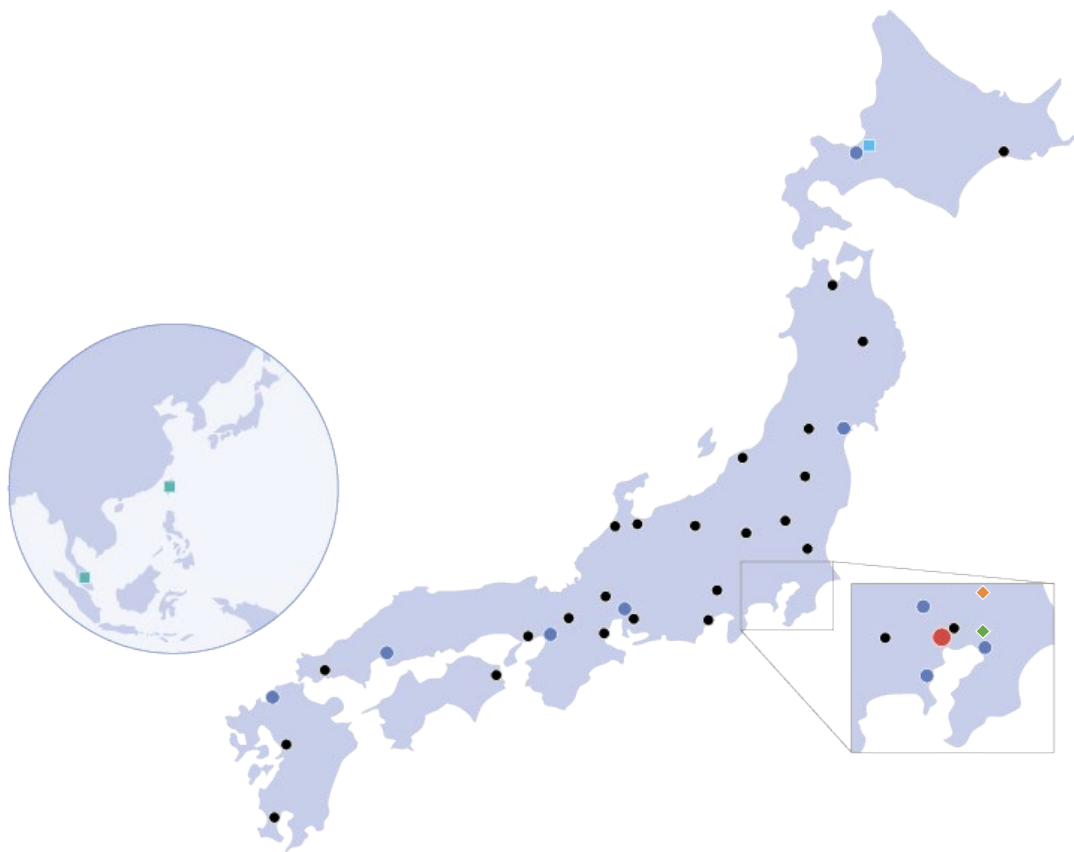
2025年12月5日

つくば技術研究所を開所



つくば技術研究所開所式

国内外拠点（2026年7月末時点）



- 本社・本店
- 大阪支社
- 北海道支店
- 東北支店
- 北関東支店
- 東関東支店
- 横浜支店
- 名古屋支店
- 中国支店
- 九州支店
- ◆ 機器事業部
- ◆ 技術研究所

- 営業所・営業室
全国各地に26か所
- 国内グループ会社
北海道アサヒ冷熱工事株式会社
(札幌市)
- 海外グループ会社
亞太朝日股份有限公司
(台湾・台北)
ASAHI ENGINEERING
(MALAYSIA) SDN.BHD
(マレーシア・クアラルンプール)

アナリストレポート（Shared Research）



- 2026年6月に、株式会社シェアードリサーチによる当社アナリストレポートが、新たに公開されました。
- シェアードリサーチは、上場企業の事業内容や業績、成長戦略などを第三者の視点で調査・分析し、国内外の投資家へ無料で提供する企業分析レポートサービスです。
- 当社のレポートは、
下記リンクまたはQRコードよりご覧いただけます。
[株式会社朝日工業社 | Shared Research](#)



決算説明会書き起こし（ログミーfinance）



- 2023年5月より、ログミーFinanceにて当社決算説明会の書き起こし記事を公開しています。
- ログミーFinanceは、上場企業の決算説明会やIRセミナーの内容を全文書き起こし記事として配信するIRメディアです。
- 当社の記事は、
下記リンクまたはQRコードよりご覧いただけます。
[株式会社朝日工業社 - ログミーファイナンス](#)



掲載ページ		該当データ		出典
p.13	高度な技術を活かした高付加価値サービスによる受注拡大	データセンターサービスの国内市場規模（売上高）予測		総務省ウェブサイト、情報通信白書令和7年版、日本のデータセンターサービス市場規模（売上高）の推移及び予測（ https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/nd218100.html#f00260 ）
		国内で半導体を生産する企業の合計売上高		「半導体政策について」（経済産業省 商務情報政策局 情報産業課）（ https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/reform/ab1/20241028/sankou3.pdf ）
p.27	セグメント別の取組み（設備工事業）	国内外の市場規模予測	DC	総務省ウェブサイト、情報通信白書令和7年版 データ集、3. 国別のデータセンター市場（売上高）の推移と予測（ https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/datashu.html#f00260 ）をもとに弊社作成
			二次電池	「分野別投資戦略について③（蓄電池・自動車、SAF・航空機、船舶、資源循環）」（内閣官房GX実行推進室）（ https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/gx_jikkou_kaigi/senmonka_wg/dai3/siryoku.pdf ）をもとに弊社作成
			医薬	「市場領域ロードマップ市場領域名：バイオ医薬品・再生医療・細胞治療・遺伝子治療関連産業」（健康・医療戦略推進事務局）（ https://www8.cao.go.jp/cstp/bio/bio_sijomap_iyaku.pdf ）をもとに弊社作成
			半導体関連	「半導体・デジタル産業戦略の現状と今後」（経済産業省）（ https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/joho/conference/semicon_digital/0011/handeji_reviesd.pdf ）をもとに弊社作成
			食品	「食品産業をめぐる現状と情勢の変化」（農林水産省 新事業・食品産業部）（ https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokusan/250804/attach/pdf/250804-02-9.pdf ）をもとに弊社作成
			アグリ（植物工場）	「先行して検討を進めている主要な製品・技術等の官民投資ロードマップ素案」（内閣官房）（ https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/nipponseichosenryaku/kaigi/dai3/shiryoku2.pdf ）をもとに弊社作成
p.28	セグメント別の取組み（機器製造販売事業）	国内外の市場規模予測	FPD製造装置	「2026年1月発表 半導体・FPD製造装置 需要予測（2025年度～2027年度）」（日本半導体製造装置協会）（ https://www.seaj.or.jp/file/jan2026seajforecastforpress_j.pdf ）をもとに弊社作成
			半導体製造装置	
			プラスチックフィルム	「日本のプラスチック包装フィルム市場：市場規模とシェア分析（2025年～2030年）」（株式会社マーケットリサーチセンター）（ https://www.marketresearch.co.jp/insights/japan-plastic-packaging-film-market/ ）
p.29	人的資本投資により未来を見据えた成長を実現	他社持株会平均加入率		「2024年度従業員持株会状況調査結果の概要について」（株式会社東京証券取引所）（ https://www.jpx.co.jp/markets/statistics-equities/examination/tvdivq0000001xhe-att/employee_2024.pdf ）
p.30	植物工場の一括提案を起点としたアグリ事業参入基盤の構築	植物工場システムの世界市場規模		「先行して検討を進めている主要な製品・技術等の官民投資ロードマップ素案」（内閣官房）（ https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/nipponseichosenryaku/kaigi/dai3/shiryoku2.pdf ）

本資料は、株式会社朝日工業社の業界動向および事業内容について、株式会社朝日工業社による現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。

これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。

既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性があります。

株式会社朝日工業社の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

本資料における将来展望に関する表明は、2026年8月6日現在において利用可能な情報に基づいて株式会社朝日工業社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。



東証プライム（証券コード：1975）

お問い合わせ先

株式会社朝日工業社 総務本部 広報・IR室

T E L : 03-6452-8209

F A X : 03-6452-8191

メールアドレス : koho-t41@asahikogyosha.co.jp